



いまいは今
vol. 259

発行 今井町並み保存会
発行日 令和4年1月1日
電話 0744-22-1128
http://www3.kcn.ne.jp/imaicho/
e-mail imaicho@m3.kcn.ne.jp
◇ご意見・ご感想は
今井景観支援センターまで

寅年新年を迎えて

会長 若林 稔

あけましておめでとうございます。

コロナウイルス禍の中で寅年の新年を迎えることになりましたが、重ねて新株「オミクロン変異ウイルス」が日本上陸という先の見通せない幕開けとなりました。

昨年まではコロナ禍にあっても、保存会としては表面に出ないけど、下地をしっかりとさせることが出来た一年間であったと思います。

副会長5人制と役員相互での連絡を密にし、ボランティアの方の増員も叶い、そして新事務所移転に伴い、保存会らしい建物で仕事が出来るようにしました。

対外的には、全国町並み保存連盟の全国大会が奈良市で開催されたのを機に、小樽（今井町で一泊）と、真壁からそれぞれの会長を含めて、9名、そして次期大会開催地の新潟市の大倉会長とが今井町に足を運んでくださって、長時間の親交を交

わすことが出来ました。

半面、恒例の活動は何一つ出来ずの一年間でした。

新年もコロナ禍はまだまだ続きそうです。が、今井町のような古民家と言われる建物こそ、コロナにも強い、更に予防医学の条件をたくさん持っている環境で、住む人にとつて大変な宝物だ！ということを再発見して、誇りをもって語れる最高の住まいだということを再認識しました。

予防医学からの識見で、これまで以上に子供が健康で、安全に育てられる町をPRし、活動を推進していき、経済面では今井町から発信、発売のできる産物を生み出す活動を進めながら、こちらのPRが出来ると「商都今井町」の大きなアドバンテージを上げていきたいと思えます。

色んな可能性を含んだ町づくりを作り上げていく土台は何といつても日本一を誇る古民家集落が現存しているからであつて、先人たちが掲げてきた町掟の最重要課題「町から絶対火を出すな」一火が出たら1軒で消せ」を守る防災体制への意識啓蒙も更に高めて、コロナからの心配がなくなつたらまた恒例のイベントなどを復活して、賑わいを取り戻せる準備をして参ります。

皆さんも健やかな新年をお迎えいただきますよう祈念して年頭のご挨拶とさせていただきます。

茶粥と古民家交流で今井町を堪能

小樽・朝里のまちづくりの会 中一夫

「おいしい！おかわりいいですか」日本古来からの味なのでしょう。素朴な炊きたてのお茶粥に小樽から来た私たち4人は感動しました。ここには広い土間と2つのかまどがあつて座敷はもちろん畳の間です。2階の屋根裏部屋へは、階段が急な角度でかけられています。お手洗いは玄関からお庭へ出て別棟になっており、そこには五右衛門風呂が設けてありました。

「商いと茶文化」の町、「住民自治の室町文化・歴史的独立都市」今井町の良さを今に伝える伝道者の若林稔さんが近年購入して修復作業を終えた「阿伽陀屋若林亭」にて、体験宿泊と今井町町並み保存会（8名）のみなさんとの交流会を開催してくださいました。

小樽の4人は、私以外は初めての今井町です。9件の重要文化財と重要伝統的建造物群保存地区の町並みの素晴らしさにみな感激しました。今井町の保存会のみなさまとの交流は、私たちには忘れられない素晴らしい一日となりました。



檀原市 ふるさと納税

ー 今井町の産品紹介④ ー

12月9日午後、北尊坊通りの「一般社団法人 日本の寺小屋」を訪れ、事務局長の秋葉幸仁さんにお話を聞きました。

当社は二〇一七年の開設で、事業内容は、日本文化の体験学習講座の企画運営を通じて地域振興を図ることです。コロナ禍で市関連施設が休館する中でも営業は続けられていましたが、来館者は極めて少なかったそうです。

ふるさと納税への産品提供は、2年前から檀原市に協力して今井町PRに役立てばという事で始められました。その品目は、今井町写真集2冊と絵はがき4枚、杉材の透かし彫りコースターをセットにしたものです。



写真集パンフレット(A4判)

- ・「日本最大級の重要伝統的建造物群保存地区 今井寺内町」 本文 16P
- ・「檀原市今井町 驚異の飾り瓦」 本文 18P

続いて、本町筋のフランス料理店「Tama」を訪問しました。ご主人の南部礼一郎さんは不在でしたので、奥様の純枝さんに取材させていただきました。



当店は二〇一一年に今井町では初めての本格的フランス料理の店として開店、10年が過ぎました。お店をゆつくりマイペースで育てていくという方針のもと、今井町に馴染んだ店

となつています。南部さんご夫妻は、長らく三郷町の自宅から通って営業していましたが、2年前には自宅も四丁目に構えて、文字通り今井町の住民の仲間になりました。

御所市の契約農家が無農薬有機栽培で育てた野菜が特徴で、中和地域の多くの常連さんに支持されています。当店もコロナの厳しい影響を受けていましたが、11月から東京方面など遠方のお客様の予約も段々増えているそうです。

ふるさと納税へは、今年4月からの参加で「ペア・ランチセット」と「ペア・ディナーセット」の2品目に加え、それにドリンクを付けた2品目、計4品目です。年末にかけて10件程度の予約が入っているそうです。

第44回全国町並みゼミ 分科会報告

副会長 大村 眞司

第一分科会は、まちづくり制度「歴史的な町並み保全に向けた制度の在り方」その課題と展望」をテーマに、伝建地区だけではなくその周辺部(バッファゾーン)を含めた景観の保全について話し合われました。世界遺産に登録された他国の映像を見ると、歴史的な町並みと周囲の都市や自然環境も連続して調和がとれていて美しいなあと感じします。もちろん制度をもとに成り立っている風景なのですが、国土の狭い日本では難しいことでしょうか？

倉敷、京都、奈良で各々活動されている三名のパネリストも景観を守るための制度設計や、活用事例など報告されました。開発優先の社会の中で歴史的な町を(景観、住民、文化などを含めて)残していくことの大切さを感じました。

わが今井町も伝建地区内の町並みは保全されていますが、外周道路の交通量の増加など、制限する制度が必要になるかもしれません。制度は窮屈な面もありますが、伝建地区内では隣の土地に高層ビルが建ったりしません。「変わらない町並み、それは未来の風景を見ていること。住民みんな町を磨き上げて『彫琢』して持続可能な町を維持していく。パネリストの言葉が印象に残りました。